

強靱化対策の軌跡

強靱化対策の軌跡

- 山梨県ではこれまでも強靱化対策を実施し、災害復旧件数や県管理道路の雨量規制区間延長が減少するなど、**着実に強靱化が図られてきた**
- しかしながら、全国で気象災害が**激甚化・頻発化**する中において、**強靱化対策をさらに進めていかなければならない**

□これまでの強靱化対策



道路法面对策（国道358号）



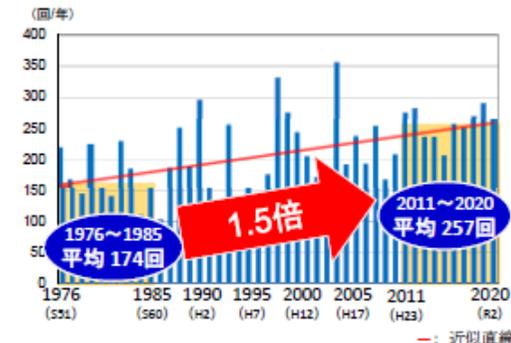
河道拡幅・堤防強化（鎌田川）

□強靱化対策の成果



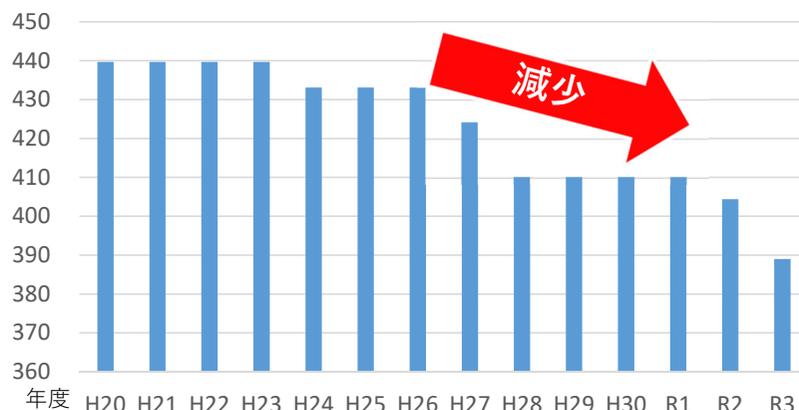
減少

□激甚化・頻発化する気象災害

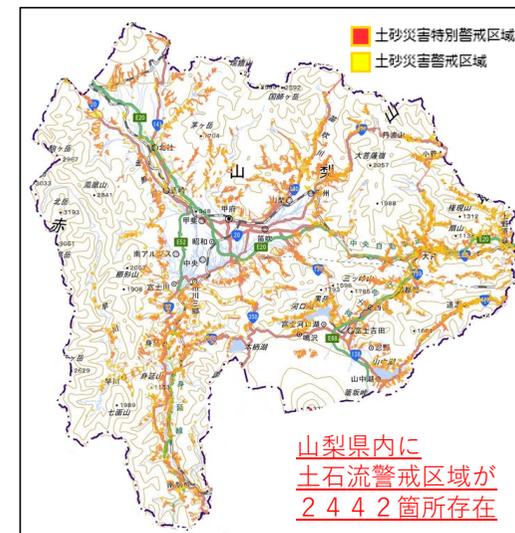


[1時間降水量50mm以上の年間発生回数（アメダス1,000地点あたり）出典：気象庁]

□県管理道路における雨量規制区間延長の推移



減少



[切迫する土砂災害]

今後、さらに強靱化を進めていく必要がある

【道路における豪雨対策 アンダーパスの冠水対策（国道358号 甲府市）】

- JR身延線アンダーパス部においてゲリラ豪雨の際に度々冠水が発生
- ゲリラ豪雨は降雨の範囲が局地的で冠水の速度が速いことから事前の予測や通行止めの措置を講ずることが困難
- アンダーパス部における排水能力の増強（15.3m³/分→24.2m³/分）により通行車両の水没を事前に回避



【国道358号 アンダーパス位置図】

- 対策時期
平成17年 ~ 平成24年
- 対策内容
排水ポンプの更新・増設 15.3m³/分→24.2m³/分
貯水槽設置 (H2×W5×L4) 2基
排水路設置 (1500×1500) L=18m
情報板の設置
監視カメラの設置



【排水路の容量拡大】



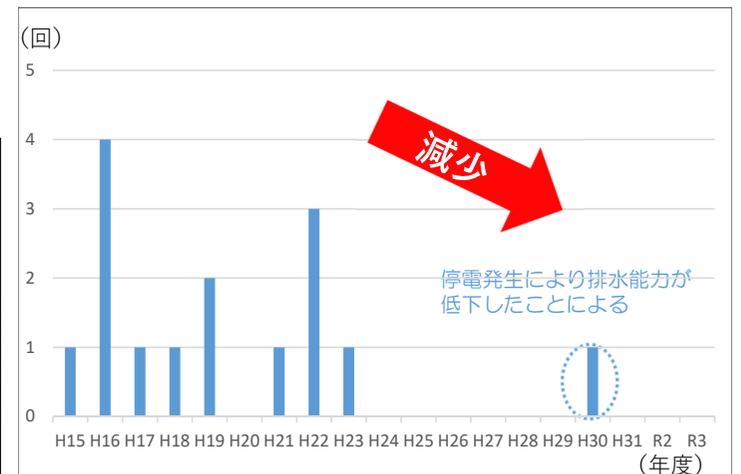
【排水ポンプ能力の増強】



【冠水発生時の状況】



【情報板・監視カメラの設置】



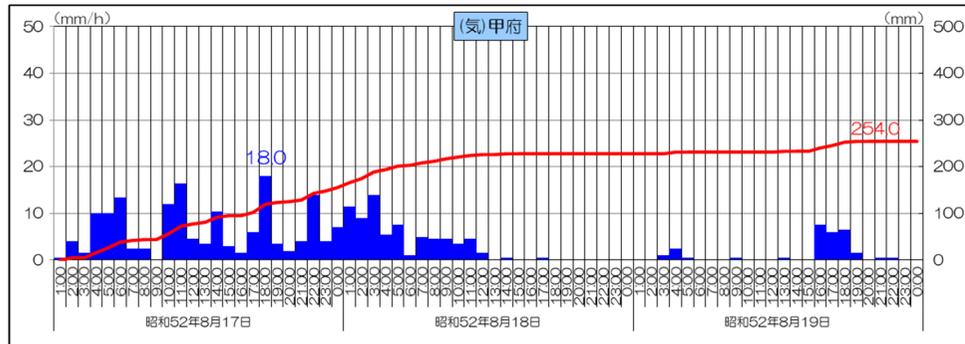
【冠水発生による通行止めの推移】

【治水対策 激甚災害からの早期復旧（一級河川濁川及び支川 甲府市）】

- S52.8豪雨(降水量254mm)では、濁川の支川が氾濫、浸水戸数が約2,400戸にもものぼる甚大な被害が発生
- 河川激甚災害対策特別緊急事業を活用し、濁川及び支川の3河川を掘削して断面を大きくする対策を集中的に実施
- これにより、水害に対する強靱化を実現、周辺の市街地化が進展するなど県民生活の発展にも貢献

□気象の概要

富士川流域の広範囲で連続三日降水量で250mm~400mm以上を記録した昭和52年8月豪雨は、過去の大規模災害が発生した豪雨に比較して継続時間が長いのが特徴であった。



[時間降雨量の変化]

□被害の状況

県内各河川は、17日昼前から増水が始まり、中小河川を中心に17日夕刻より18日の未明まで増水が続き、甲府市東部を流れる濁川の支川十郎川、大円川、高倉川は次々と氾濫。

浸水戸数は、約2,400戸にのぼるなど県民生活に甚大な影響を及ぼした。



[整備区間]



[当時の被害状況]

□災害からの復旧

被災からの早期復旧に向け、濁川河川激甚災害対策特別緊急事業に着手、昭和52年度から5ヶ年計画で抜本的な災害の防止を図った。

整備対象は、濁川の国里橋上流並びに支川十郎川、大円川、高倉川。

事業完了後、昭和52年8月豪雨を上回る降雨を記録しているが、整備区間での氾濫は発生していない。



出典：国土地理院



[改修以前の国里橋上流の様子]



出典：国土地理院

激特事業の実施により河川の氾濫を未然に防ぎ、家屋等を水害から回避



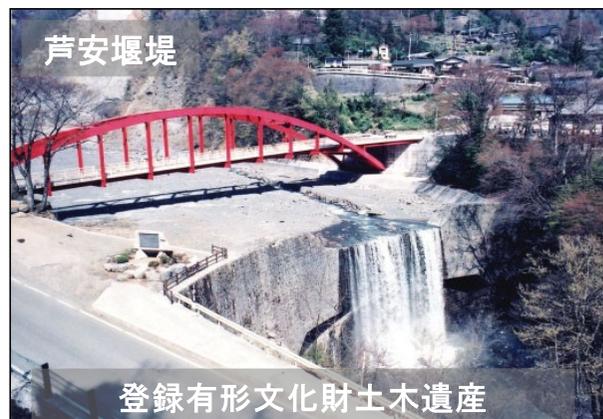
[現在の国里橋上流の様子]

【土石流対策 砂防施設の整備効果（御勅使川 南アルプス市）】

- 御勅使川はこれまでに幾度となく災害が発生し、特に、昭和57年8月の台風では南アルプス市（旧芦安村）において**大規模な土石流被害が発生**
- これまでに近代砂防の出発である**芦安堰堤**や**源堰堤**を始め**多くの砂防施設を整備**
- これにより、令和元年10月の台風19号において昭和57年8月を上回る降雨が発生したが、砂防施設の整備効果により**家屋被害等が伴った災害の発生を回避**



上流部に設置された砂防堰堤



下流部に設置された床固工



南アルプス市芦安芦倉（旧芦安村）



砂防施設の整備効果

